

自動車会議所 ニュース

発行所



一般社団法人 **日本自動車会議所**
Automobile Business Association of Japan

〒105-0012

東京都港区芝大門 1-1-30 日本自動車会館

電話：03 (3578) 3880

FAX：03 (3578) 3883

URL

https://www.aba-j.or.jp



第4回 CSP大賞2024

CSP大賞 特別号
2025 No.960

発行人 島崎 豊

編集人 田村 里志



受賞者との記念撮影の様子



大賞を受賞した「全国軽トラ市でまちづくり団体連絡協議会」の皆さん(左から2~5人目の4人の方)

幅広い関係者が課題解決へ協力

25の優秀な取り組みを選定



第4回(2024年度)クルマ・社会・パートナーシップ大賞表彰式
主催 日本自動車会議所 日刊自動車新聞社

第4回 クルマ・社会・パートナーシップ大賞

日本自動車会議所(内山田竹志会長)は2025年2月7日、東京都港区の第一ホテル東京で第4回(2024年度)「クルマ・社会・パートナーシップ大賞(CSP大賞)」(共催)日刊自動車新聞社の表彰式を開催し、受賞者をはじめ自動車業界の関係者など約100人が出席しました。今回は全国から46件の応募があり、25件を「グッドパートナーシップ事業」に選定しました。その中から「大賞」、大賞に次ぐ「選考委員特別賞」、そして「部門賞」として「モビリティ・ソリューション賞」2件、「地域・コミュニティ活性化賞」2件、「SDGs貢献賞」2件、「自動車ユーザー連携賞」1件の計7件の受賞者を決定しています。主催者を代表して挨拶に立った内山田会長は、「今回

は共同応募に名を連ねる企業、団体の数が増えており、多くの関係者を巻き込んで課題解決に当たるプロジェクトが多かったと感じています。受賞した取り組みにはより光を当て、幅広く広報を行っていきます。今後もクルマ・社会・パートナーシップ大賞は当会議所の大切な事業として継続し、自動車業界の重要な表彰制度にしっかりと育てていきたいと考えています。第5回となる2025年度のCSP大賞においても、今から数多くの素晴らしい取り組みに接することができると楽しみにしています」と話しました。その後、賞状授与や受賞者のスピーチなどのセレモニーが行われ、表彰式終了後は別フロアへ会場を移して交流会が実施されました。

大賞は軽トラ市による商店街活性化
大賞には全国軽トラ市でまちづくり団体連絡協議会(通称「軽トラ市」)の「軽トラ市による商店街活性化活動」が輝きました。賞への応募は、軽トラ市と若手車石町、宮崎県川南町、愛知県新城市の各市町で軽トラ市を運営する実行委員会と、愛知大学3選南信地域連携研究会(以下「南信」)の協力で、表彰式でスピーチしたしんろ軽トラ市「のんほいロケット」実行委員会のワーキングメンバーの安藤誠一さんは、「(われわれ)だけではなく、全国で軽トラ市を運営しているすべて

受賞者 喜びの声
グッドパートナーシップ事業に選定された企業や団体からも喜びの声が上がりました。取り組みをもっと進めるパートナーや地域への感謝を伝えるメッセージが自立ととも、すでに取り組みの次の段階を見据えているところも少なくありませんでした。選定企業・団体の代表者のコメントを紹介いたします。

モビリティ・ソリューション賞
「ハイブリッド車(HV)を活用して医療的ケア児を災害時に支援することの取り組みは、医療的ケア児やその家族に貢献する「ソサエティ」に貢献しています。ソサエティの代表が当社社員の顧客であり、そこから始まりました。現場のつながりが活動に結びついたのはうれしい限りです。今後、この取り組みを全国に広げたいと思っています。皆さんの中にも取り組んでほしい」と(トヨタカローラ香川の向井良太郎社長)。

SDGs貢献賞
「数年前からビジネスや利益につながるだけでなくSDGsや社会貢献活動で企業価値を高められるのではないかと漠然とさまざまな活動をやってきました。表彰をいただいたことでその志が正しかったと感じ、社員や地域の皆さまにも誇れるものとなりました。(アテル・カースの池永成代表)

自動車ユーザー連携賞
「先人の技術を活用しながら、古い車をよみがえらせて、それを新しいものづくりにつなげようという取り組みです。立派な賞をいただいたことに喜んでいきます。(新明工業の石川貴樹社長)。

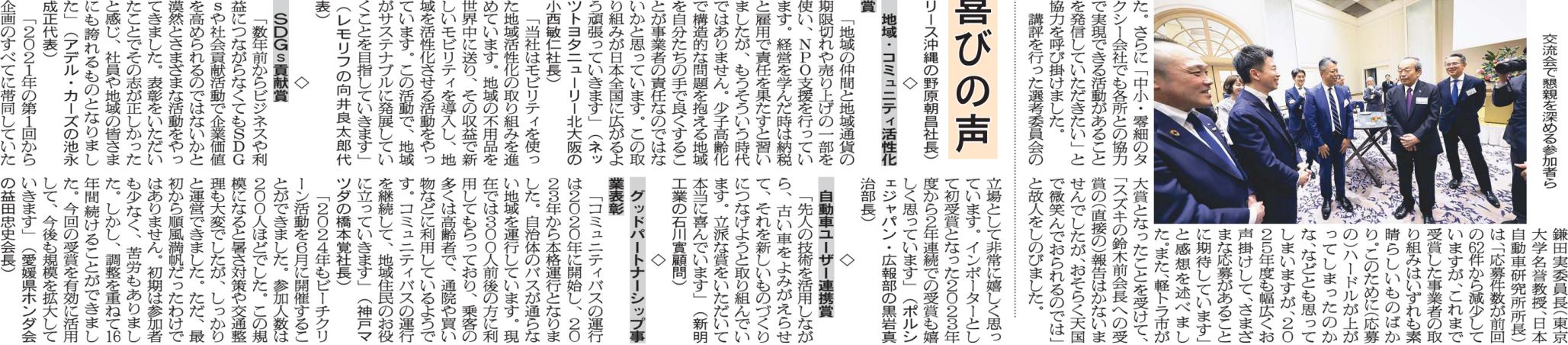
地域・コミュニティ活性化賞
「地域の仲間と地域通貨の期限切れや売り上げの一部を使い、NPO支援を行っています。経営を学んだ時は納税と雇用で責任を果たすと習いましたが、もうそういう時代ではありません。少子高齢化で構造的な問題を抱える地域を自分たちの手で良くすることが事業者の責任なのではないかと思っています。この取り組みが日本全国に広がるよう頑張っていきます。(ネットソトウナリー北大阪の小西敏仁社長)。

選考委員特別賞は南信州広域タクシー
選考委員特別賞は、南信州広域タクシーの「EVタクシー」のデマンド交通運行CEO「削減」が受賞しました。同

社は、地域の特性に即した安全対策を進め、安全で快適な環境づくりに努めることにも、沖縄ならではの特色を生かして取り組みを進化させていきます。(トヨタレンタ

交流会懇親を深める参加者

鎌田実委員長(東京大学名誉教授、日本自動車研究所所長)は「応募件数が前回の62件から減少していますが、これまで受賞した事業者の取り組みは、いずれも素晴らしいものばかり。このために「応募のハードル」が上がってしまったのか、などとも思っています。2025年度も幅広くお声掛けして、さまざまな応募があることに期待しています」と感想を述べました。また、軽トラ市が大賞となったことを受けて、「スズキの鈴木前会長への受賞(直接の報告はないまま)でしたが、おそろしく天国で微笑んでおられるのでは」と故人をしのびました。



鎌田実委員長(東京大学名誉教授、日本自動車研究所所長)は「応募件数が前回の62件から減少していますが、これまで受賞した事業者の取り組みは、いずれも素晴らしいものばかり。このために「応募のハードル」が上がってしまったのか、などとも思っています。2025年度も幅広くお声掛けして、さまざまな応募があることに期待しています」と感想を述べました。また、軽トラ市が大賞となったことを受けて、「スズキの鈴木前会長への受賞(直接の報告はないまま)でしたが、おそろしく天国で微笑んでおられるのでは」と故人をしのびました。

クルマ・社会・パートナーシップ大賞特集

業界とユーザーへの貢献に「感謝」

大賞「全国軽トラ市」でまちづくり団体連絡協議会

選考委員特別賞は南信州広域タクシー



日本自動車会議所 感謝表彰

第4回 クルマ・社会・パートナーシップ大賞



3社連携によるゼロエミッションタクシー導入を促進

日本自動車会議所(内山田竹志会長)は、第4回(2024年度)クルマ・社会・パートナーシップ大賞(CSP大賞、共催「日刊自動車新聞社」)の受賞者を決定した。大賞は、全国軽トラ市でまちづくり団体連絡協議会(岩手県平石町)が受賞した。同協議会は、軽自動車可動店舗とした定期市を継続的に実施し、商店街の活性化や地域で活動する人材育成を図る「軽トラ市」を全国で展開してきた取り組みが評価された。選考委員特別賞は、南信州広域タクシー(長野県飯田市)が選出された。同社は、二酸化炭素(CO₂)排出削減を目指した電気自動車(EV)タクシーによるデマンド交通運行や災害時電力ライフライン確保などの諸活動に尽力した。表彰式は9月7日、都内のホテルで開催した。

CSP大賞は、自動車業界は、昨年9月の公募開始から約150万人と自動車ユーザーによるさまざまな貢献活動に「ありがとう」と感謝を伝え、それぞれが「ありがとう」として「グッドパートナーシップ」の25件を選定した。さらにはこの25件の中から、表彰の目的や日本自動車会議所のビジョンに合致する大賞とそれに次ぐ選考委員特別賞、各部門賞を決めた。部門賞は、モビリティに関する課題やモビリティの手段を通じた社会課題の解決に向けた活動を表彰する「モビリティ・ソリューション賞」、地域や自治体と協働・連携し、地域活性化を目指す活動を対象とする「地域・コミュニティ活性化賞」、SDGsの目標達成につながる取り組みを対象とする「SDGs貢献賞」、ユーザーとして自動車を大切に取り扱い、性別や年齢などに関わらず幅広い層から評価される取り組みを対象とする「自動車ユーザー連携賞」の4部門を設けた。今回の表彰では、7社が上位賞として部門賞を受賞した。



宮崎県川南町の定期朝市トロントロン軽トラ市

「モビリティ・ソリューション賞」は、トヨタカローラ香川(香川県高松市)とトヨタレンタリース香川(香川県高松市)の2社、「SDGs貢献賞」はアデル・カース(熊本県南区)とポルシェジャパン(東京都港区)の2社、「自動車ユーザー連携賞」は新明工業(愛知県豊田市)。



日本自動車会議所 内山田 竹志会長

挨拶

挨拶

このたび第4回(2024年度)クルマ・社会・パートナーシップ(CSP)大賞の表彰式が開催され、主催者を代表して、ご挨拶申し上げます。さて、周知のとおり、日本の自動車産業は、全就業人口の約1割にあたる500万人の方々が生産・消費・納税・サプライチェーンといった幅広い分野において重要な地位を占める基幹産業です。自動車業界500万人の方々の協力をいただき、多岐にわたる活動に日々さまざまな取り組みが実現し、日本や世界の発展に貢献し、日本や世界の経済・社会を牽引する役割を担っています。今年も選考委員の皆様による熱意ある厳正な審査を経て、受賞者が決定された運びとなりました。大変ご多用の中、審議にお時間をいただきました。選考委員の皆様、誠にありがとうございました。御礼申し上げます。

幅広く光あて「ありがとう」

「クルマ・社会・パートナーシップ大賞」は、当会議所の大切な事業として今後も継続し、自動車業界の重要な表彰制度にしっかりと育てていきたいと考えております。第4回となる本年度の大賞においても、数多くの素晴らしい取り組みが寄せられました。最後に、受賞者の皆さまをはじめ、自動車業界、自動車にかかわるすべての皆さまの「発展を祈念申し上げます。表彰にあたっての御礼と感謝のご挨拶とさせていただきます。

東京大学名誉教授/日本自動車研究所長 鎌田 実 選考委員長

選考することができました。町の「軽トラ市」による商店街活性化活動は、日本の誇る軽トラを使った市場を全国規模に展開し、長年取り組んできた活動であり、大賞に相応しい内容でした。大賞に選ばれたのは、南信州広域タクシー(長野県飯田市)の「ゼロエミッションタクシー」を活用した地域の活性化に貢献した取り組みです。また、多様な取り組みもつと広がれば、自動車ユーザー関係の約半数に絞らせた活動も、長く活動を継続的に実施されてきており、高く評価されました。大賞に選ばれた全国軽トラ市で、まちづくり団体連絡協議会(岩手県平石町)が受賞しました。



多様な取り組みもつと広がれば、自動車ユーザー関係の約半数に絞らせた活動も、長く活動を継続的に実施されてきており、高く評価されました。大賞に選ばれた全国軽トラ市で、まちづくり団体連絡協議会(岩手県平石町)が受賞しました。

関根 千佳

(ユーティリティ会長兼シニアフェロー)



森 撰

(オルタナ代表取締役社長「オルタナ」編集長)



田口 亜希

(日本財団パラスポーツサポートセンター競技団体支援部ディレクター)



宮木 由貴子

(第一生命経済研究所常務取締役)



島崎 豊

(日本自動車会議所専務理事)

花井 真紀子

(日刊自動車新聞社代表取締役社長)



大賞

軽トラ市による商店街活性化活動

地域振興に加え災害復興にも貢献



とを目的として組織した研究・社会実験的な連携事業を展開する。軽トラ市のスタートは05年。元祖軽トラ市は、岩手県東磐井町の「元祖軽トラ市」、宮崎県川南町の「定期朝市トントロ市」、愛知県新城市の「しんしろ軽トラ市」と呼ばれる。さらに、軽トラ市活動の拡大を目的として、15年から調査研究機関として愛知大学三遠南信地域連携研究センター(愛知県豊橋市)が参加。定期的な全国調査を行い、全国軽トラ市の調査を、業者、運営者、運営費などの定量的な調査も行い、軽トラ市

全国軽トラ市でまちづくり団体連絡協議会

【共同応募】元祖軽トラ市・実行委員会「定期朝市トントロ市」軽トラ市事業委員会「しんしろ軽トラ市」のほいれロッソ・実行委員会 愛知大学三遠南信地域連携研究センター



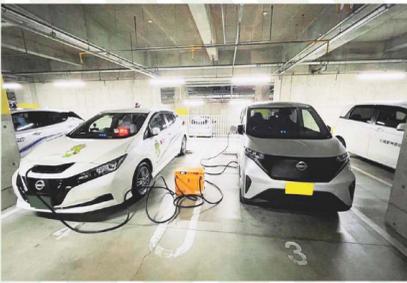
「受賞コメント」この度は、CO2削減をいかに実現できるか、軽トラ市は05年の発祥から始まり、今では全国100を超える軽トラ市が、人口減少の中で、商店街を活性化し地域を支える重要な手法です。今後は、軽トラ市と関係する軽トラ市、愛知大学の共同応募ですが、全国軽トラ市と関係する軽トラ市を活性化させたいと思っております。



「受賞コメント」この度は、CO2削減をいかに実現できるか、軽トラ市は05年の発祥から始まり、今では全国100を超える軽トラ市が、人口減少の中で、商店街を活性化し地域を支える重要な手法です。今後は、軽トラ市と関係する軽トラ市、愛知大学の共同応募ですが、全国軽トラ市と関係する軽トラ市を活性化させたいと思っております。

選考委員特別賞

EVタクシーのデマンド交通運行でCO2削減



脱炭素へ公共交通事業者を先導

優良な運輸事業者を目指す。脱炭素へ公共交通事業者を先導。EVタクシーは同市行政から委託されたデマンド交通として運行されている。また、このEVの給電システムを活用し、災害時の電力供給を確保している。同社は、大規模災害で電力がストップした時でも電力を確保し、被災者の避難を支援している。



また同社は、次世代自動車導入の促進を図る。EVの充電が可能なEV充電器「POCHAVE」を導入。EVからEVへの充電ができるため、このような場所でもEVの充電が可能。これを活用し「電欠時駆けつけサービス」を開始した。これにより充電設備の不足や電欠の不安を払拭でき、次世代自動車導入の促進を図る。

南信州広域タクシー

南信州広域タクシー(鈴木佳史社長、長野県飯田市)は、二酸化炭素(CO2)排出量の削減を目的として、EVタクシーを導入している。また、このEVの給電システムを活用し、災害時の電力供給を確保している。同社は、大規模災害で電力がストップした時でも電力を確保し、被災者の避難を支援している。



「受賞コメント」この度は選考委員特別賞をいただき、誠にありがとうございます。この受賞は弊社の取り組みだけでなく、環境文化都市である飯田市の取り組みの賜でもあります。今後も、公共交通事業者として、より良いサービスを実現するために、人と環境にやさしく安全に安心してご利用いただける企業を目指してまいります。

モビリティ・ソリューション賞

HV活かし医療的ケア児の災害時支援



トヨタカローラ香川(向井良太郎社長、香川県高松市)は、2024年3月以降、カーシェアリング用ハイブリッド車(HV)の給電システムによる医療的ケア児の災害時支援に取り組んでいる。この取り組みは、医療的ケア児とその家族の防災を考えた。医療的ケア児が使用できない医療機器が使用不能となるほか、命にかかわる事例が発生する。蓄電池の備えが重要なため、HVを活用し、災害時の電力供給を確保している。同社は、大規模災害で電力がストップした時でも電力を確保し、被災者の避難を支援している。

「受賞コメント」この度は、モビリティ・ソリューション賞をいただき、誠にありがとうございます。この受賞は弊社の取り組みだけでなく、環境文化都市である飯田市の取り組みの賜でもあります。今後も、公共交通事業者として、より良いサービスを実現するために、人と環境にやさしく安全に安心してご利用いただける企業を目指してまいります。

「受賞コメント」この度は、選考委員特別賞をいただき、誠にありがとうございます。この受賞は弊社の取り組みだけでなく、環境文化都市である飯田市の取り組みの賜でもあります。今後も、公共交通事業者として、より良いサービスを実現するために、人と環境にやさしく安全に安心してご利用いただける企業を目指してまいります。

モビリティ・ソリューション賞

「沖縄ゆいまーるプロジェクト」で地域活性化



トヨタレンタリース沖縄(野原朝昌社長、沖縄県那覇市)は、2020年3月以降、発生する交通渋滞や交通事故防止の観点から、観光客の移動をサポートし、産官学連携による地域活性化に尽力している。この取り組みは、観光客が増えることで、観光客が集中することで、交通渋滞や交通事故が発生する。観光客の移動をサポートし、産官学連携による地域活性化に尽力している。

「受賞コメント」この度は、選考委員特別賞をいただき、誠にありがとうございます。この受賞は弊社の取り組みだけでなく、環境文化都市である飯田市の取り組みの賜でもあります。今後も、公共交通事業者として、より良いサービスを実現するために、人と環境にやさしく安全に安心してご利用いただける企業を目指してまいります。

「受賞コメント」この度は、選考委員特別賞をいただき、誠にありがとうございます。この受賞は弊社の取り組みだけでなく、環境文化都市である飯田市の取り組みの賜でもあります。今後も、公共交通事業者として、より良いサービスを実現するために、人と環境にやさしく安全に安心してご利用いただける企業を目指してまいります。

産官学連携し事故防止と渋滞解消

「受賞コメント」この度は、選考委員特別賞をいただき、誠にありがとうございます。この受賞は弊社の取り組みだけでなく、環境文化都市である飯田市の取り組みの賜でもあります。今後も、公共交通事業者として、より良いサービスを実現するために、人と環境にやさしく安全に安心してご利用いただける企業を目指してまいります。

